

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	株式会社 都紀		
事業所名	下古賀紀水苑		
所在地	佐賀県佐賀市東与賀町下古賀69-25		
自己評価作成日	平成 30年 10月 25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 30年 11月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅や田園がある自然豊かな環境にある施設で、リビングの大きな窓からは季節の移ろいを感じ取ることができ、入居者様も自然と視線が外に向かれ、四季の風景を楽しまれています。目の前には畑があり採れたて野菜をおすそ分け頂くのも日常茶飯事です。隣には同法人のグループホームがあり、一緒に地区の行事に参加したり、避難訓練も協同で実施でき安心感があります。同法人の3事業所合同での花見や夏祭り、敬老会、クリスマス会といったイベントにも力を入れています。委員会活動も行っており入居者様の暮らしに反映できるよう活動しているところです。当苑では、100歳以上になられる方が4名おられ日々元気にお過ごし頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯にあるホームで、明るく落ち着いた雰囲気の中で、入居者の方は自宅のようにくつろいで生活されている。自立支援の観点から、入居者の方それぞれに役割があり、入居者の方の力を最大限に発揮できるようにスタッフの適切な支援がある。また、ホームの方針として、積極的に地域交流に努められており、自治会や民生委員の方も気軽に立ち寄られる場所となっている。地域のお祭りや敬老会などへの参加もあり、地域の一員として認識されている。加えて、スタッフは自己研鑽の機会も多く、法人の勉強会では、認知症の方への関わりや身体拘束についてなど学び、日々のケアに活かされている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月のオリエンテーション時、年2回の委員会主催の認知症勉強会時と理念の説明を行い共有・振り返りの機会を設けている。	フロアにはホームの理念が掲げられ、機会をとらえて職員の皆さんが振り返りをされている。言葉だけでなく日々、入所者の方に寄り添い、その方の尊厳を大切にしたケアを実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所の方と挨拶したり、お野菜を頂いたり、おはぎの配布やお歳暮で季節の挨拶をしたりと交流できている。自治会に加入しており子供神輿の訪問や地域の行事に出掛けたりしている。	地域との交流を意識され、東与賀の銭太鼓保存会、シチメンソウ祭りなど地域ならではの行事を大切にされている。近隣の方々とも入居者、スタッフ共に良好な関係を築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括支援センター主催の認知症カフェ参加時など理解や支援方法を伝え活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し議題については年間計画を立て事前に配布している。包括スタッフや民生委員、家族、薬剤師などの参加があり行事と一緒に参加して頂き、現場を見て頂いたり定期報告や情報交換している。	年に6回の運営推進会議開催に合わせ、夏祭りや敬老会、新年会、消防訓練など行い、民生委員や家族、地域の方々と繋がりを深められている。会議の中では地域の方の介護相談に対応することもあり、情報交換の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへ毎月のお便りを配布したり、運営推進会議に参加して頂いたり、認知症カフェに参加したり、直接出向いたり協力関係が築けている。また行政の方とも連絡や相談を行っている。	日頃から地域包括支援センターとは連携・協力関係ができている。認知症カフェには入居者・スタッフ・家族も参加し、地域包括ケアシステムの一員として地域の中で認識されるようホームの中だけでなく外部との交流を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設での全員を対象にした身体拘束についての勉強会に参加し学んでいる。今年度より身体的拘束適正化検討委員会を立ちあげ、代表・都紀管理者で話し合った内容を事業所スタッフにも報告・周知徹底するよう取り組んでいる。また取り組んでいる事を家族会でも知らせた。	身体拘束について勉強会で学び、日頃のケアが身体拘束に当たらないか、ヒヤリハットをもとに検討し対策を考えるなど真摯に取り組まれている。スタッフ全員で身体拘束に対する感度を高め、介護の質の向上につながるよう実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、勉強会で学び、スタッフ同士で注意しあい防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会などで学びあっている。成年後見制度に関しては本人・家族に打診し利用に結び付いた方が一人いらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い利用者・家族が納得して契約出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や思いを表せる機会として毎年アンケート調査を行い、家族会にて報告しており、日々の面会時などにも意見・要望を聞くよう努めている。またその結果を会議で報告しケアに活かすようにしている。	面会時の関わりだけでなく記録物の配布や入退去報告、アンケート実施などを行われている。家族の意見・要望を積極的に聞き、その内容はケア会議で検討したうえで、ケアに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議、委員会、食事会などの場を含めて日頃より意見交換できており意見・提案を言いやすい関係で、反映できるものは取り入れている。	勤務年数の長いスタッフも多く、コミュニケーションが取れている。意見・提案も活発に出され、運営やケアに反映に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務基準表作成しており、個々の能力や努力の把握に努め向上心を持って働ける様環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士実務者研修を2名の職員が受けており、FC勉強会や自施設勉強会、委員会主催の勉強会を計画し経験に応じた研修に取り組んでいる。苑外研修に関して情報提供し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC間や法人内での勉強会、委員会活動や苑外研修などを通じて交流やネットワークが広がっておりサービスの質の向上が出来ている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望など十分に聞き、生活歴や興味があるられる事を念頭に置きながら信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望や分からない事、質問など丁寧に説明し少しでも安心してサービス利用して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で利用者の状態や生活環境を考慮し、今何が必要なのかを見極め希望を反映できるサービスを説明・紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方通行の介護・支援ではなく、職員・入居者共に共感し分かち合う関係性を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や苑行事などを通じて本人と家族の触れ合いを大切にし、職員・家族それぞれが知っている情報を共有し本人を支えていく関係性を築いている。また、御家族の中にはボランティアで毎月カラオケやオカリナを演奏してくれる方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力の下、こまめに自宅へ外出したり、食事に出掛けられたり、差し入れを持参され一緒に食事される方もおられる。また希望時には自宅や知人宅へ外出支援したり、苑外活動時自宅前を通ったりしている。日常的に馴染みの人や場所の話題に触れ、写真貼付や年賀状を書いてもらい忘れてしまわれないよう取り組んでいる。	入居者の方の、かつての住まいを訪ねたり、会いたい人との面会を支援したりと、それまでの人生を大切に思いやり、関係継続の為に気配りされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合えるよう挨拶や会話の仲介、レクや家事など共同作業の場を設けている。入居者同士で唄いあったり、行動を気にかけて知らせて下さるなど関わり、支え合いが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も来苑して下さったり、お盆に線香をあげさせてもらったり、はがきで交流を続けている家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	極力本人の言葉や行動、表情を見ながら希望とさせてもらっている。また、御家族にも伺い反映させている。	意思をうまく言葉で伝えられない方にも、さりげなく心のうちを察して対応されている。個別アンケートでは思いがけない言葉や気持ちがつづられることもあり、日頃から入居者の意向の把握に気を配られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前事業所より入居される前の生活情報の聞き取りをし、入居後も引き続きご家族や親類知人などから話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力の把握に努め、その日の調子を見ながらそれぞれができる事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の様子や変化を見ながら介護スタッフ・看護師・協力病院・薬剤師と連携、情報収集しケアマネが作成、モニタリングしている。	スタッフにはそれぞれ担当する入居者の方がおられ、責任をもってケアに当たられている。また、チームでの気付きは細やかなモニタリングにつながり、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子や変化などを個別記録や申し送り、連絡ノートで伝えたり、ケア会議で話し合ったりと情報を把握・共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の会話や御家族とは来苑時での会話、アンケートを通し柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安全な暮らしができるよう消防団や自治会と連携し協力して頂いている。また、豊かな生活となるように近隣住民との交流や認知症カフェへの参加、他地区主催の子供達との交流の場への参加など少しでも楽しんで頂ける様取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1～2回協力病院からの訪問診療があり、家族希望により入居時かかりつけ医を変更される方もおられるが、入居前からのかかりつけ医を継続されておられる方もいる。必要に応じ協力歯科医や皮膚科の往診も来て頂いている。	本人と家族の選択を尊重されているが、ホームに往診してくれるかかりつけ医との協力関係を構築しつつ、入居者がより適切な医療を受けられるよう支援されている。希望や状況により通院同行もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	共に働いている事で情報や気づきを共有しやすく報告・相談しやすい環境。健康状態など細やかに報告し相談できている。協力医療機関看護師にも報告・指示を受け適切に処置や受診が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時管理者を中心にこまめに面会し病院関係者、家族と情報交換し早期退院できるよう連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と毎年の家族会の中で説明と意向を確認している。実際重度化や終末期になると改めて意向の確認をし、医師を交え支援の方向性を話し合っている。	ターミナルケアに取り組まれており、契約時と毎年の家族会の中で意向確認をされている。実際のターミナル期には、再度医師も交えて、ケアの方向性について話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を全員受けており、勉強会や会議などでも知識や対応を学んでいる。判断基準マニュアルもすぐ手に取れる場所に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に地区の避難場所となっている所への移動訓練・確認を行った。避難訓練を行い消防署・消防団など協力体制は築けている。近隣住民に関して訓練参加はないが案内状配布の際など、実際災害時での協力をお願いしている。法人の中で全員を対象に緊急連絡網に添っての通報訓練を行った。	年に2回、消防署、消防団と共に夜間想定避難訓練が行われている。首から下げる名札や顔写真入りの情報ファイルなど、日頃から万が一に備え様々な工夫がなされている。訓練には地域の方も参加されているが、役割確認はこれからである。	災害時の近隣の協力体制はあるが見守りなどの役割分担することで、更に安全な避難に繋がることに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応の仕方を工夫している。特に排泄や入浴面ではプライドを傷つけることなくプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	特に排泄や入浴などについては、プライバシーに配慮した言葉かけに留意されている。スタッフ間で目立たず、さりげない対応を具体的に確認し合うようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が言葉を発しやすい様にこちらから促したり、答えやすい様に短い単語で問いかけたりしている。言動から思いを汲み取ったり、選択肢を提示して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムやペースを大事にし尊重するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や色味を把握し、身だしなみを整えたりおしゃれができるよう支援している。夏祭りでは浴衣や甚平を着て女性は口紅をつけ参加したり、化粧ボランティアから化粧をして頂いたりした。また、訪問理容では好みの髪型にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて職員と食材を買い出しに出掛けたり、料理本を見て頂きながら何を食べたいか尋ねたり、下ごしらえや味見、洗い物など作業を通し食事が楽しいものとなるようにしている。	スタッフと共に買い物や調理、後片付けなどその能力に応じて力を発揮できるよう支援されており、温かい雰囲気がリビングに満ちている。また、食事の楽しみが感じられるよう行事食、外食も取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や活動量、口腔内の状態、嚥下、咀嚼など個人の状況を考慮し形態や量、とろみ付を提供している。好みや習慣を把握し栄養バランスを考え摂取量・水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後能力に応じて磨ける方には自分で磨いてもらい、口腔内を確認し不十分な場合は言葉かけや仕上げ磨きを行っている。義歯磨きには専用の洗浄剤を使用している。歯科居宅療養管理指導を受けておられる方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々のパターンを掴み、その方の状態に応じてこまめにトイレに案内したり、時間を置いて案内したり不快にならぬよう支援している。夜間オムツ着用の方でも汚染状況によってはポータブルトイレ介助行い失敗を減らしている。	個人の排泄パターンをつかみ、可能な限りトイレで用を足す支援に努められているが、本人の身体機能に応じておむつを適切に利用されている。羞恥心や不安の軽減がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を勧めたり、乳製品や食物繊維の物を提供し歩行運動や腹部マッサージなど行っている。個々の状態に応じて無排便日数など考慮し下剤服用してもらいスムーズな排便へと繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて午前・午後にタイミング良く行っている。基本1回/2日の入浴だが体力に応じて1回/3日の方もおられる。身体状態や安全を考慮し2人介助をしている方もいる。温泉の素を入れたり、会話や歌を唄って楽しんで頂ける様支援している。	2日に1回の入浴が基本であるが、本人の意向や好みを重視して支援されている。無理強いはせず、くつろいで入浴してもらえるよう、ゆず湯など趣向も凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や希望、体力、体調を考慮して休息と活動のバランスを考慮しながら対応している。夜間も個人の希望や眠気を伺いながらタイミングを見て臥床誘い掛け気持ち良く安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的内服薬はもちろん、臨時の内服薬処方や変更に関しても理解・把握に努め状態変化に気掛けている。また誤薬がないように服薬介助の際には日づけ・名前・○食後の確認を行い細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで楽しめるレクや体操、個々の能力に応じた家事や得意事、歌、草むしりや新聞読みなど活動支援をし役割や楽しみ事支援している。週1回のヤクルト訪問を楽しみにしておられる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行能力に応じて日課のお参りに戸外へでたり、近隣散歩や日光浴、地区行事やイベントへ外出支援している。希望により自宅や知人宅へ外出支援したり、ご家族と食事に出掛けたりされる方もいる。	日常の買い物や近所への散歩など普段からよく外出もされており、月1回のバスハイクで花見をしたり外食、ドライブなど、楽しみのための外出支援も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて買い物ツアーなどでお金を扱って頂いている。個人管理で所持しておられる方もおり、薬局やヤクルト訪問の際にはご自分で支払いされる。残高が少なくなると追加を依頼される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり受けたりした際に、電話を代わって本人がお話されたり、難聴の方には仲介役をして交流がもてるようにしている。また、電話をかけて欲しいとの依頼時には対応している。家族から届いた品物に対しお礼の手紙を書いてもらった事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるよう四季に応じた壁絵や展示、旬の食材を用いた献立を取り入れている。また、音や採光にも配慮し居心地の良い共用空間づくりに努めている。	落ち着いた中にも季節感のある壁絵や展示などで生活空間として居心地の良い場となっている。明るさ、におい、音など入居者の方の様子を確認しつつ手入れがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の向きを変える事でリビングでも一人の空間に近い状況を作り出している。また、仲の良い入居者同士が交流しやすいよう配置・空間作りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は家族様とベッドの向き等を相談しながら配置決めしている。また使い慣れた茶卓やポットを持参されたり、位牌や遺影を持参されている方もおられる。家族写真を張り安心して居心地よく過ごして頂ける様取り組んでいる。	思い出の品を活かして、その人らしい居室となるよう、本人の意向を確認しながら工夫されている。また、安全にも配慮し、ベッド横にマットやカバーなど置いたり、温湿度管理を徹底するなど居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ入口に張り紙をして、場所を分かりやすくし行きたいときに行けるようにしたり、居室入口にもネームプレートを張り出し自室の理解が出来るよう環境作りに努めている。		